

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査（国語、算数）の結果

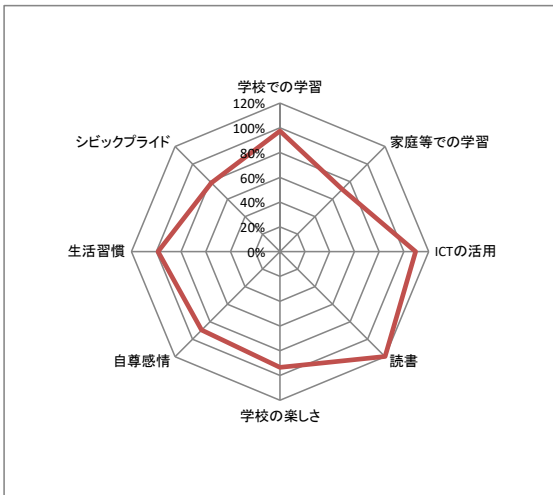
本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.3	66	9.4	59
全国	9.4	67	10.0	63

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的に全国平均をやや上回っている。無回答率は、全国平均より低い。 ・「言葉の特徴や使い方に関する事項」の正答率は良好。基礎的・基本的な内容の定着が図られている。「書くこと」「読むこと」については課題がみられる。 	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	・漢字を分の中で正しく使うことや、敬語に関する問題、文章の種類と特徴を捉える問題の正答率が高かった。	上回っている
	努力が必要な問題	・情報と情報との関係付けや文章と図表を結び付け、必要な情報を捉える問題の正答率が低かった。	

算数	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的に全国平均をやや下回っている。無回答率は、全国平均より低い。 ・「図形」「データの活用」について特に課題がみられる。四則計算や図形の意味や性質の理解に関する問題への正答率が低く、基礎的・基本的な内容の定着を図る必要がある。 	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	・伴って変わる二つの数量について、表から変化の特徴を読み取り、表の中の知りたい数を求める問題についての正答率が高かった。	下回っている
	努力が必要な問題	・切って開いた三角形を正三角形にするために、テープを切るときの角の大きさを求める問題の正答率が低かった。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・学校での学習では、「自分の考えがうまく伝わるよう工夫して発表すること」や、「友達と話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすること」への肯定的な回答が約80%と高かった。児童が、教師とともに真剣に学習に取り組んでいることへの表れであると考えられる。 ・家庭学習（自分で計画を立てて学習することや家庭での学習時間）が大きな課題となっている。宿題に毎日取り組むことができていない児童は多いが、「自分で計画を立てること」や「学年×10+10（分）の時間の確保」には至っていない。家庭における学習習慣の定着に向けての取組の充実が必要である。 ・ICTの活用や読書については、全国平均を大きく上回っている。学校、家庭の両方で学習にタブレットを取り入れたり、読書が習慣化されてきている成果であると考えられる。 ・「人の役に立つ人間になりたい」と考える児童が100%に近い一方で、「自分には、よいところがあると思う」については、全国平均を下回っている。学校行事等において、一人一人が輝く場を設定することやキャリア教育の充実を図っていく必要がある。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

<ul style="list-style-type: none"> ・国語科の学習において必要な情報を読み取るだけでなく、それらをどのように活用するのか、また自分はどのように考えるかなど活用する学習を充実させる。 ・算数科の学習において（ ）を用いた式や四則が混合した式の計算、また図形の意味や性質についての理解を図るなど、基礎的・基本的な内容の反復学習に取り組む。 ・社会科・理科・総合的な学習の時間の学習においても、情報を活用したりそれに対する自分の考えをもつ学習の充実を図る。

② 家庭生活習慣等に関する取組

<ul style="list-style-type: none"> ・学校だけでなく保健室でも、学年通信を通じて児童の生活（学習）習慣の実態を定期的に周知していくとともに、PTAと連携して課題の改善に向けた取組を実施する。 ・「あいさつ」「えがお」「げんき」の学校目標の下、学校行事等各活動において「一人一人が輝く機会」を意図的に設けるとともに、学校と家庭とで、児童の頑張りや成長への称賛や価値付けをこれまで以上に行うようにする。
--